

鍼灸拔毒

灸法

鍼灸拔萃序

凡欲治病者莫如用鍼巧運神機
之妙用開聖理之深蘊邪輔正實
哉刺有手法有補瀉有迎隨時有
溫涼寒熱人有虛實瘦肥正有欲
用鍼者先明此旨也次定脈候也
手法刺禁穴處可審焉予爲初學

之人從素難諸家之鍼灸秘密妙
臆書中拔出其肝要集號鍼灸拔
萃極此意施治則庶乎行遠升高
之一助云爾

鍼灸拔萃目錄上

第一 四知之論之事

第二 脈之見樣之事

第三 腹之見樣之事 付生死ヲ知ル事

第四 五藏之色脉之事

第五 天地人男女之法之事

第六 太極之事

第七 針灸之慎之事 付四季人神。毎日人神

第八 設藥之制法之事 血支日。血息日。長病日

第九 尺寸定法之事 付髮際定法之事 大椎定法之事

第十 針入不拔樣之事

第十一 折入針拔樣之事

- 鐵灸拔萃上目録終
- 第十二 撚針撚樣之事
 - 第十三 打針之手法之事
 - 第十四 管針之手法之事
 - 第十五 砭針之事
 - 第十六 補瀉迎隨之事
 - 第十七 阿是之穴之事
 - 第十八 手指之圖之事
 - 第十九 針之圖之事
 - 第二十 藏腑之圖說之事
 - 第二十一 骨度之圖之事
 - 第二十二 經絡圖說病論之事

鐵灸拔萃上

一 四知之論

神聖工巧望聞問切是ヲ肯察大成ニハ四象ト云大類
 太全ニハ四妙ト云難經俗解曰四知難經曰問
 知之謂之工切脉而知之謂之巧望而知之謂之神聞而
 知之謂之聖又曰以外知之曰聖以內知之曰神
 夫肝心脾肺腎五藏內ニ病ハ時ハ即青黃赤白黑ノ五色
 而ニ顯ル面色青ハ腹中ノ痛ミナリ赤ハ腹中ノ熱也黃
 大ハ脾ノ藏ヨリキ也白キハ腹中ノ寒也黒ハ腎氣ノ
 ヤフル也也飲酒如醉ナルハ神氣ノ不足手足ノ指ノヒ
 節アイスキタルモノハ病ヲ得テ遅ク愈ル也凡如此見ル
 所ヲ以テ内腹ノ病ヲ知ヲ望ト云ヒ神ト云

夫五藏内ニ有テ五聲ヲ出ス。歌哭呼笑呻是也。五音ハ又五聲ヨリ出ツ。宮商角徵羽是也。然ル病者ノ聲ヲ以テ其腹中ノ病ヲ知ル。譬ハ哭スル肺ノ病ト知ル。スハナタリ鼻ヒル者ハ肺ニ風有ト知リ。笑テヨダレ多ハ脾ノ病ト知ル。怒ヨバワツテ涙多ハ肝ノ病也。嘔ヲ多ク吐キ呻ハ腎虛損也。汗出テタハコトツクハ心ノ病也。聲ノ輕キ氣ノ弱也。聲ノ重ク濁ハ風氣ノ痛ミ也。一向ニ声ノタヌハ肺病也。声ノ急ナルハ神ノ衰ル也。声ノ塞ハ痰ノシワサ也。声ノ振フハ冷ナリ。声ノ重シクハ氣ノ不順也。アエクハ氣ノイソカハレキ也。アクビ多ハ倦ルナリ。右如此病者ノ声ヲ以テ藏府ノ病ヲ知ル。故ニ是ヲ聞ト云ヒ聖ト云也。

夫五味ハ口ニ入胃ニ納ルト云ヘ凡是ヲ口カレコナレテ脾

ニ渡セハ則是ヲ五藏六府ニ散スル也。五味モ又其味ニ依テ受之也。肝ハスキヲ好ム。心ハ苦ヲ好ム。脾ハ甘ヲ好ム。肺ハ辛ヲ好ム。腎ハ鹹ヲ好ム。右如此病者ノキヲヒコノム味ヒヲ問フキマヘテ五藏ノ病ノ發所ヲ知ル。又病者常ニ好シテ何物ヲ食レ何レノ日病ヲ受イカヤウニヤミハレメタルト委クトヒ尋テ病ノミナモトヲ知ヲ問ト云ヒエト云。右以上三術ヲツクシ其後脈ヲウカヒ虚實ヲワキ上ニ凡四道ヲ分別シ陰陽寒熱ヲアキラメ生死吉凶ヲ定ムルヲ診候ノ術ト云ナリ。脈ヲウカハフ夏ハ神氣ヲレツメ呼吸ヲ定メテ取ルヘキ也。脈ヲタレカニテ藏府ノ病ヲワキマヘ生死ヲ知故ニ是ヲ切ト云ヒ巧ト云ヒ針灸醫ノニツヲ行ハハ先

酒ヲ禁ズシ婦人ノ念ヲヲコスヘカラス貪欲ノ心ヲ生
ズヘカラスソ子ム心ニクム心ヲ生ズヘカラス今ノ鹿醫ハ
病人ヲ得テ後醫ハ先醫ヲソシリ先醫ハ後醫ヲソシ
ム針者ハ醫ヲソ子ニ醫ハ針ヲ嫌フ仁ノ道ニ有ヘカラス
古人豈不謂之君子欲達已先達人

二 脉法

男ハ左女ハ右ノ手ヨリトリコ、ロムナリ。指ヲウケテ衛
ヲサクルニ指ノハラニ浮ミ通モノアリ是氣ノ往來也其
ヲ按シテ見ルニカアリテソト太ナルハ氣ノ實ナリ又カ
ナクヨクキユルヤウナルハ氣ノ虚ニタルナリ指ヲ少シシ
ツメテ榮ヲサクルニカアリテソト沉ナルハ血ノ實ニタル
ナリ亦チカラチク澁リテ弱ハ血ノ虚ニタルナリ凡一息

ノ間ニ脉四動フウハ平脉ナリ少壯ノ人ハ四動半五動
モウツナリ老衰ノ人ハ四動ヨリヲソキモアリ一息トハ
醫者ノイキヲレツステ呼吸ノ間ヲ一息ト云呼トハ出ル
イキ吸トハ入ルイキノコトナリ少壯トハ十四五ヨリ二十
已上ノ一老衰トハ六十ヨリ上ノ人ヲサシテ云ナリ

祖脉

浮ヲカハ風
ナキハ虚
沉ヲカハ積
ナキハ氣
遲ヲカハ痛
ナキハ冷

浮ハ指ヲ押テモウケテ重ヤワラカニアタ
ルナリ韌ヲ押テミルコ、ロナリ
沉ハレツミタル脉ナリ指ノハラニアタルカ
アタラヌカト云ヤウニソコニテウツナリ
遲ハソノキ脉ナリ呼吸ノアタニ脉
二三度分リウツラ云フナリ

數ニカ^{アル}熱^{ナキ}六^{ナキ}瘡^{ナキ}

數ハヤキ脈ナリ呼吸ノアイタニ脈
五六七動モウツラズナリ

此四ノ脈ヲ以テ一切ノ脈ノヲヤカタトスルナリ故ニ
祖脈ト云祖ハラヤカタトヨムヘナリ

六脉

病人ノ脈ヲトル事醫者ノ右ノ手ノ食指入下ハ心脈
中指ノ下ハ肝脈無名指ノ下ハ腎脈ナリ又左ノ食指
ノ下ハ肺脈中指ノ下ハ脾脈無名指ノ下ハ命門ノ脈
ナリ心肝腎肺脾命門六脉コレナリガクノコトク心へ
テイツレノ脈タカフリイツレノ脈ブルト云フ其虛實病
ノミナモトヲカシガヘテヨクシモナリ人煩テ脈病ガルハ
生脈ヤム時ハ入病サレトモリス

四季ノ平脈アリ春微弦夏微洪秋微浮冬微沉
脈ニ七表八裏九道トテ凡四脉其外脉ノ數ラシトイ
ヘトモ其大略ヲアラハス

三

腹之見様^{付病人生}
^{死ヲ知事}

患入ヲ仰キニ回サシテ兩足ヲノベサセ兩ノ手ヲ股ノワキ
ニ付伏出テサテ男ハ左女ハ右ノ乳ノ下ヲ手ノ平ニテ押
ヘ病人ノ心ヲシツメサセ五六呼ノ程ラシテ其手ヲ下レ上
腕ノヨリ押ヘテ靜ニ左右ヲウカヒ見ル男ハ左ヲ先女
ハ右ヲ先ニ見押ヘテ病人ノ心ヨキハ虛ナリ押テ痛ハ實ハ
輕ク押テ痛ハ邪表ナリ重ク押テ痛ハ邪裏ナリ
ヨリ上胸ノ下ス手テ臍ヨリ下フクレテ押コタヘ有ハ
腎精ノ實ニテ無病ノ入トス胸ノ下フクレ臍ノ下スキ

タル腎ノ虚ナリ臍ノ上下ナレヨフテ何ノサワリモナク
押コタヘ有ハ平生ノ常也或ハ堅ク或ハミダリニヤハラカ
ニシテ木ノ枝ナト袋ニ入テサクリ見ルヤウ成ハタヒ
無病ナリト云凡皆病アリ。左右ノタツ筋ハリテ有ハ
性氣ノ虚也生死ヲウカ、フハ臍下三寸關元ノ穴ニテ
ウカ、フズ。此穴ハ天ノ一元ノ氣ヲ我ニウケ始ル所則一身
ノ大極ト沙汰スル所。經ニ曰ク臍下腎間ノ氣ハ乃人ノ
生命十二經ノ根本ナリ。三焦ハ則元氣ノ別使ト有リ。此
三焦ノ根本ヨリ始リ終ルモ三焦ヨリ終ル。然ルニ依テ死
スル者ハ必ス三焦ノ部ノ一元ノ氣無キナリ。其一元ノ氣ヲ
ヨク窺ヒ有無ヲ知ル則生死ヲ知ル。其ウカ、ヒヤウハ。手
サキニテ押テ見ルニカタク空虚ニ指ヲ動シ三焦ニ中ク

ホニシテ立ニミソ有。指ノ落入ヤウニ覺ル。秘傳ノ下堅右ヲナク
ル如キ者ハ必死也。是上腹心傳受ト云アレ凡醫ノ秘傳ナ
ル此ヲ略スサテ元氣見脈ヲ見テ生死ヲ知フ先見脈ヨキ人
ハ床ニツキ食不通ト云凡本復スレ見脈アレク腹ニアレキ
ハ極テ死症也。見脈目付アリ。二面赤ク眼白。二面青ク眼黃
三ハ眼光ナク。四ハ鼻下人中ノ跡ナク。五ハ唇青身ヒエテヒ
リガレ。六ハ食物ヲミテウシロムキ。七ハ衣ヲナテ床ヲ
サクリ。八ハ髮スクミ麻ノゴトクナリ。九ハウナジノ筋ノ
ヒ。十ハ手ノ内ノレワナク。十一ハ手足ノ爪青黒ク
十二ハ唇コカレハテ青白ク。十三ハ足ノ甲又ハ裏腫
十四ハ身重ク太便タモタス。十五ハ眼ノヒトミヲ不轉
十六ハ身ワルクサク。十七ハムカフラ落入。十八ハ鼻耳
口黒。十九ハ面青白ノタワコトツキ。廿ハ兩頰赤ク一切

五臟 五行 五腑 五根 五主 五支 五募 五親

水俞筋眼膽木肝

心火 小腸 舌 血 毛 經 木子

火子合乳肌露胃土脾

肺金大勝皮癰息井子土

腎水膀胱耳骨肢榮金子

不^フ言^{コト} 此^{コノ}ハ口^{カミ}ヲアキハ
 便^ニ秘^ヒ澁^シス 此^{コノ}ニハ久^{キウ}ク病^{ビョウ}
 ソラ目^メヲツカヒ淡^{タン}ヲフキ
 腹^{ハク}上^{ジョウ}ニ惡^{アク}ハ万^{マン}ハ万^{マン}死^シ也^ヤ

右ノ證ニツテ顯ス時危シニ三ヲ頭レ

四
五臟之色

五季 五方 五柄 五色 五香 五味 五液 五志 五變 五精 五惡 五聲 五侵

絶ハ乎ハ風フウ竈カマド握ニグ怒イラ泣ナク酸スウ臍ヘリ肱コウ甲ケツ刺シ都ト

鎮^{チン} 言^{ゴン} 熱^{ネツ} 神^{シン} 憂^ウ 笑^{セウ} 汗^{カン} 苦^コ 焦^{セウ} 赤^{カシ} 丙^{ヒノ} 南^{ナン} 夏^カ

味歌疆意歲思誕耳香黃戊申中央土用

聲コエ哭ナク燥カラ皸カサ欬カ癰ウミ涕ナマリ痒カサ白シロ庚カ西ニ

冬 北 主 癸 黑 腐 鹹 唾 怒 標 精 寒 坤 液

五音 角 徵 宮 商 羽
 五調子 雙調 黃鐘 一越 平調 盤涉
 生數 三 二 五 四 一
 成數 八 七 十 九 六
 五經 厥陰 少陰 太陰 少陽 太陽
 五位 震 離 坤 兌 坎
 右五臟ノ行色ヲモツテツノ病ノミナモトヲ知ルモノナリ
 面ニ青キ色ヲアラハスハ肝ノヤブレナリ。赤キ色ヲアラハスハ
 心ノヤブレ腹中ノ熱ナリ。黄色ハ脾ノ藏ノヤブレ也。白キ色ハ
 肺ノヤブレナリ。黒キイロハ腎ノヤブレナリ。肝心脾肺
 腎ノ積ヘノ通りヲサダメサテツノ五藏六腑ノ行色ヲ
 上ノ五ノ字ノ通りヨリ見下スベシ。カクノコトク會得セハ
 五藏ノ色々々ヤスクガ明ニ知ルモノナリ。

五 天地人男女之鍼法

人ニ天地人ノ三オアリ。針ニ天地人ノ三オ有リ。人ニ天
 地人ノ三オハ胸ヨリ上ヲ天トシ胸ヨリ臍マテヲ人トシ
 臍ヨリ下ヲ地トス。天ニ輕淺地ニ重深人ニ中様ヲ用
 天ニ鍼深キトキハ人ヲ殺ス。誠ニ針ノ大事ヲ傳此所ニ有
 是心ノ俞魂ノ宿スル處ニ近キ故也。天ニ針サスハ針ヲ
 フレテ淺ク輕ク撚ルヘシ。若シ針刺シテ過アラハ其面ヲ補
 ミテヲヒ。口鼻ノ息ヲ溫メ面ニ風ヲアテステ。男ハ足ノ三
 里崑崙穴ハ三陰交サテ男女正ニ臍ノ下一寸五分氣海ノ
 穴ニ刺シテ補瀉ヲナスヘシ。必ス鍼スル又鍼ニ天地人ノ三
 オハ刺シテ皮肉ニ至ラ天ト云。肉内ニ至ヲ人ト云。筋骨ノ間
 至ヲ地オト云也。七十難曰ク春夏ハ宜淺秋冬ハ宜深。

男ハ淺ク女ハ深ク午前ハ淺ク午後ハ深ク女ハ是ニ
是是陰陽ノ法ナリ針灸ヲ行フニ先行年宜忌及人
神在ル處ヲ定ムヘシ不然ハ害有ルヲ万物ハ五行ノ理ニ
カス人ハ天地ノ正理ナル故也經曰ク人ハ天地ノ氣ヲ受テ
三ノ天ノ陽氣ハ氣トナリ地ノ陰氣ハ血トナル天地ハ万物
ノ父母タリ頭面喉膈心腹臍下肩背肘腿手脚皆手
法アリミタリニ施スベカラス

六 太極

針ニ太極ト云フマリ此理ハ言ニムテモ心ニヲナス心得ト
クレテモ言ニムヘカタキフン万物ノ上ニヲイテ太極ノ理マ
ラスト云フナシ先天地ノ太極ト云ハイミタ天地未分ノトコ
ロヲ指テ太極トス其太極判テ陰陽兩儀ヲ生ス兩儀

四象ヲ生シ四象ハ卦ヲ生スコレヨリ寒暑燥濕風木火
土金水青黃赤白黒千變萬化トナル分テ云時ハ虚無ヨリ
混沌ヲイタス清ハ上テ天上成リ濁ハ下テ地下ナル是陰陽
ノ初ナリ易ニテサスルトキハ乾坤未分ノトコロゾ周茂
叔ハ太極本無極トミタリ太極則無極ナリ心法ノ上ニサ
タス時ハ色則コレ空空則コレ色ナリスベテ大空切ノトコロゾ
針ノ上ニヲイテサスルトキハ針ハ本金空ノ身細少無心ノ
者ナリナニヨツテカキ變萬化ノ病ヲ治スコレ針者ノ
術ヲウルトコロ補瀉迎隨溫冷寒熱病ニ隨明手ヲ施ス
ハ太極ノ口傳アリシカレトモ極テ秘密ナレハ分明ニアラ
シガタシ針ノ道ニヨクカナフトキハナリイタラサルベケ
レヤ一氣其中ニ周旋シモツテ其神ヲナスレイセシニナリ

レル理ナリ外ニモトムヘカラス

七 針灸慎之事

針ヲ用ニテ欲セ共前日ヨリ房事ヲ忌ヘ又針シテアリテ
ノ次日以上三日房事ヲ實ニサト針ノ驗微ナリ灸治
ヲ用ニテ欲セ共前三日ヨリ房事ヲ忌ヘ又灸治ノ後七
日房事スヘカラス針灸ヲ用ル時怒ルヘカラス若シ怒ル事
アル時暫ク氣ヲシタ氣定テ後ハシテ灸スベシ又甚ハシ
酒醉ノ時勞役ノ時針灸スヘカラスサテ灸ノ後三日風
呂ニ不入又湯ニ不入洗足ハ翌日ヨリ用ユベシ
右針灸ヲ行時風ヲタカラス窓隙ヲヨク閉テ行ヘシ

四季之人神

春ハ左脇

夏ハ臍

秋ハ右脇

冬ハ腰

毎日之人神

一日足大指

二日外踝

三日股内

四日腰

五日口

六日手

七日内踝

八日足腕

九日尻

十日腰背

十一日鼻柱

十二髮際

十三牙齒

十四胃脘

十五遍身

十六胸

十七氣衝

十八股

十九足

廿日内踝

廿二外指

廿三外踝

廿四肝俞足

廿五

廿六

廿七日膝

廿八日陰

廿九日膝脛

卅足

卅一

十二時入神

子丑寅

卯辰巳

午未

申酉

戌亥

血忌日

正丑二未

三寅

四申

五卯

六酉

七辰

八戌

血支日

九巳

十亥

十一子

十二午

十三

正二寅三卯四辰五巳六午七未八申九酉十戌十一亥十二子

長病日

六日 十五日 十八日 廿三日 廿四日 廿八日 廿九日

右此日鍼灸并初テ藥服スルモ忌ヘシ

八艾葉之制法

本草三云ク艾味苦氣微溫陰中陽無毒主灸百病三月三日五月五日ニ採艾殊ニ神矣アリ月ニサレシ曰テ擣テ後手ニテ揉綿ノ如クニシテ可勝年ヲ經タル弥佳也紙ニテ卷長サ二分ガリニ切ヘシ擣サハ切口三分ハカリ人ノ氣力ニ應レテ大小ヲ量ルヘシ小ナハ俞穴ニツル事アリ千金ニ黃帝曰ク灸不三分是謂徒驚炷務大也小弱ニ及小作之明堂下經曰凡灸欲炷根下廣

三分若不三分即灸氣不能達病未能愈小兒ニ小麥ホトニスヘシ氣力ヨキ人ニ和カヒ子リテ用ユヘシ

灸火法

鉄石ヲ以テ打テ火ヲ出シアラタヌ麻油ニ燈心ヲ入テトモシ火トシ此火ニテ灸スヘシ諸米ノ火魚ノ油ヲ用ユヘカラス箸ハ桃ノ枝ノ東引名ヲ三月三日ニトリテ用ユヘシ竹モクルシカラス灸シヲワリニロニテ蓋ヲカミテ其灸穴ニ付テ又二三壯モ灸シテ置クヘシ

尺寸ヲ定ル法

男ハ左女ハ右ノ手ノ中指ノ第二ノ節ノ上ノ折目ト下ノ折目トノ間ヲ其人々ノ一寸ト定ル也折目ニ内外アリ食指ノ方ヘ向タル折目ヲ取ヘシ無名指ノ方ヘ向タル取

ガラス中指ヲ屈シテ取ル屈スル口傳アリ如環スル

髮際ヲ定法

凡ハ髮際ノ分明成ル子細ナレ若髮拔テ髮際ノ分明オラザルハ兩ノ唇ノ正中ヨリ二三寸上ヲ前ノ髮際ト定背大推ヨリ三寸上ヲ後ノ髮際ト定ル也

大推ヲ定法

大推ヨリ上三小推一ツアリ或ハ二ツ有ルモアリ或ハ又一ツモナキモアリ大ノ字心ヲ付テ取ルヘシ又秘傳アリ肩ト齊キヲ大推ト定ムヘシ

十 針入テ不拔事

針肉内ニ入テヒケレ不出下セドモクダラザル一問々アルモノ或ハ針入夏三四五分ニテ難出ハ皮肉針先ニ入テ一競ニラツト拔ヘシ又二三寸モ熱下シテ出カタクハ臟腑ノ邪氣令運動針サニ寄集テ針ニト付ル也且進退動搖セシ邪氣ヲチラサシメテ而指ニカヲ入テ心シカニ抜ヘシ是手法ノ口傳也難出トテ不可驚如此心得ル時ハ無不出

十一 折鍼

本草云醫工人ニ鍼ニテ而針折ヒテ肉内ニ有テ出スニ壯鼠ノ肝及腦ヲツキクタクテ針口ノ上ニ塗ヘシ又針ニカキラス何ニテモ肉ニ入テ不出ニ象ヲ粉ニノ水ニテトキテ上ニ付ヘシ忽チ出ル也

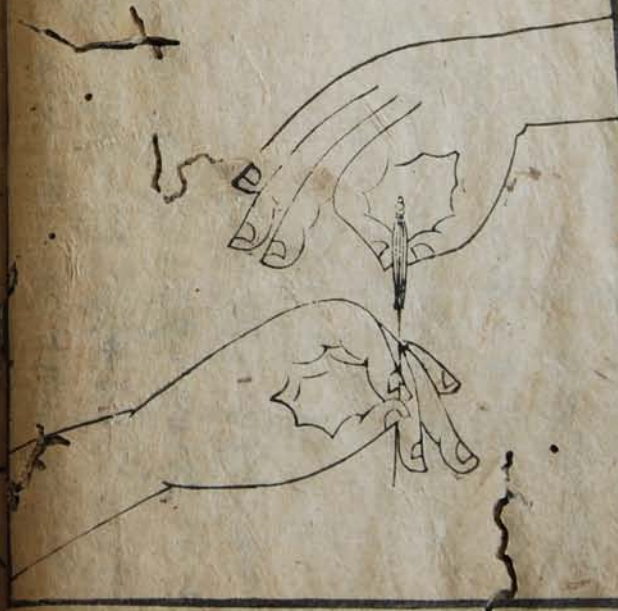
十二 然鍼手法

欲行鍼者先四知ヲ定ムヘキ也。サテ我カ志シテ正シテ疾
人ニ心ヲ付念フ鍼ニ移シ目ヲ外ニ見テ一ナク。人トモノイ
ハズ腹ニ行トキハ先ツ左ノ足ヲ敷右ノ足ヲ立テ鍼先ヲ
口ニ含ミ左ノ手ヲ病入ノ腹ヲ窺ヒ見テ得穴也其針
セント思フ穴ヲマツ左ノ大指ソトハラ爪ノ角ニ至リ木
呼程其穴ヲラス金針部曰爪ヲ以テ其穴按重メコレヲ
切トアリサテ中指大指ヲ合セテ穴ノ上ニ置右ノ肘ヲ
膝ニセテ鍼ヲ以テ穴ニアテ左ノ中指ニテ鍼口ヲ推ヘ
食指大指ヲ上テ鍼ノ中ヲ持右ノ食指大指ヲ以テ輕ク
捻リ下ス急ニ捻リ急ニ下ス痛ヲ忍ビカタル呼ニ隨ヒテ左
右ノ食指大指ニテ和カニ押シ下スニ補瀉迎隨溫涼寒
熱ノ刺ヤツマリ經曰刺ノ留ムル春夏ハ二ノ四息秋

冬ハ三十六息ニシテ針ヲ出スト有リ然レ正ニ氣衰タ
ル人ニハ五六呼ニテ針ヲ出メ能キナ針ノ抜キマウハ先ツ少
出シサテ持チナシテ引離ス中指ニテ鍼ノ口ヲ推シモム
是ヲ針口ヲ開ルト云鍼ヲ出スヲ急ニ手鹿ナハ針口ヨリ
血出少是榮衛ヲ破ナリ七十一難曰榮ヲサハ衛ノ
ヤルヲナカレ衛ヲ刺ハ榮ヲヤブルヲナカレト也血ハ榮衛ノ主
タリ血出ハ何度モ閉ヨ醫經曰ク針ヲ出スヲ謾ニ出スヘ
カラス三四次徐々ト轉メ出サ血イデスノヨキノエタリ
ストキハ必ズ血ヲミルトアリ凡肥人ハ針刺スヲモ深ク瘦人
ニ淺ク刺ス也大人ハ針モ大小兒ハ細キヲ用ユ初メテ
針ヲミナフ人ハ先我カ腹ニ刺テ針トナリ様子ヲ能ク
ミサテ他人ニ示用也金針ハ最上也何病ニモ効速ニ能ハ

ハ鈍シ鐵針ハ惡シ殊ニ久ク用ユル内ノ肉ニ力折ルモノ
鐵針ヲ用ユル勿

子バリノ



十三 打鐵

打鐵ハフカク刺コナレ幾クシテ効アリ。一身ハ榮衛ヲ
以テ主トスルナリ。榮衛ハ氣血ト云フ也。又經
ニモ滯氣ノ經ニ隨ヒ運ルモノヲ衛氣ト云フ其精氣ノ經
ニカガヒテ運ラ榮氣ト云フ氣血道ノ外ヲ浮テ輕ク運
ズ血ハ筋ノ底ヲ流滯スル也。氣ハ陽衛是ナリ。血ハ陰
榮是ナリ。氣ハ外ヲムクラシメ。肌肉ヲ溫メ。血ハ筋ノウチヲ
ナカシテ。肌腠ヲウルヌ。サハ氣血ハ十六丈二尺ノ脈道
ヲ一呼ニ行ク。三寸ニ變ニ行ク。三寸ニ呼吸定息脈行ク
六寸ニ晝一夜ニ一萬三千五百息脈行ク。八百一
十丈晝夜百刻ノアイタ五十篇。久ナリ氣ヲ往來血
ノ流通太過不及虛實トニヨツテ諸病ヲ求メ打針

ノ理是言ル針フトクニテ槌ニテ撃ニヨリテ衛氣ヲ甚
動搖シ骨髓ニ徹ス手法ハ手ノ人ニ立ヨリ左ノ足ヲレキ
右ノ足ヲタテ槌ヲ右ノ足ノ甲ノ外ヅラニナラベクヘ
レ先槌ノ置キドヨサタメザル置キワスルモノヅザテ針
ヲロニ含ミ左ノ手ニテ病人ノ腹ヲウカヘ見テ中指ヲ
食指ノウレロニ重テ穴處ニ置キ針ヲ中指食指ノ間
ハサミ針銳ノ肌ニツカヌホドニテ槌ヲトリ針ヲ打ナリ
押ヤシ口傳アリ手輕ニテ皮ヲ切ルニ痛ニヌヤウニ
ツツナリ入ルヲ一分ニテ槌ニ手コタヘアリコレヨリニ三
分ニモ至ル深キヲキラフヲ押ガ衛氣ヲウゴカレ推テ
内ニ徹レ捺テ補瀉迎隨ヲ行ス針出レテ後
推手ツヨク槌ヲカルクツベレ推手ツヨク槌ニナリ

アハ痛ツナニルト云ハタテハ田舎メモノ云フ或ハ
ナリ或ハ言説不分明也槌ノ打様ハレドロニナキ様ニ
一ニヲカゾスルガ如ク手ツヨクツツベレ打鍼ノ本意ハ
腹バカリニ用テ外ノ經ニカハワラヌゾ其深意ハ諸病ノ
本五藏ニナリ格致餘論曰ク病ノ本有レハ草ノ根有
コトシ葉ヲ去レ根ヲサラザバ草ナラアリ病ヲ治ス
一草ヲ去ル如キノ病ノ藏ニ有ラレカモ腑ヲ治レ病表
ニ有テ而モ裏ヲ攻メトアリ諸病ハ皆五藏ヨリ生ズ然
ルニヨリ病ヲ治スルニ其本ニ求テ治スルカ本意ノ或ハ眼筋
ヲ病メトキハ肝ノ腑ニ針ヲ刺スノ鼻皮息ヲ患ルトキハ
肺ノ腑ニ針刺ス餘ハ皆ツ例ニ效ヘ諸病ノ見ルハツロヲ看
テ其本ニモトシテ治メ作ス打針ハ腹ヲ外手ノ上ハ

本意ヲラズ入ルモ一ニ
分ヨリ深ヲ要トセス樹
ニ手コタヘアル骨髓ニ徹ス
ルヲ傳有之

ウチハリノ圖



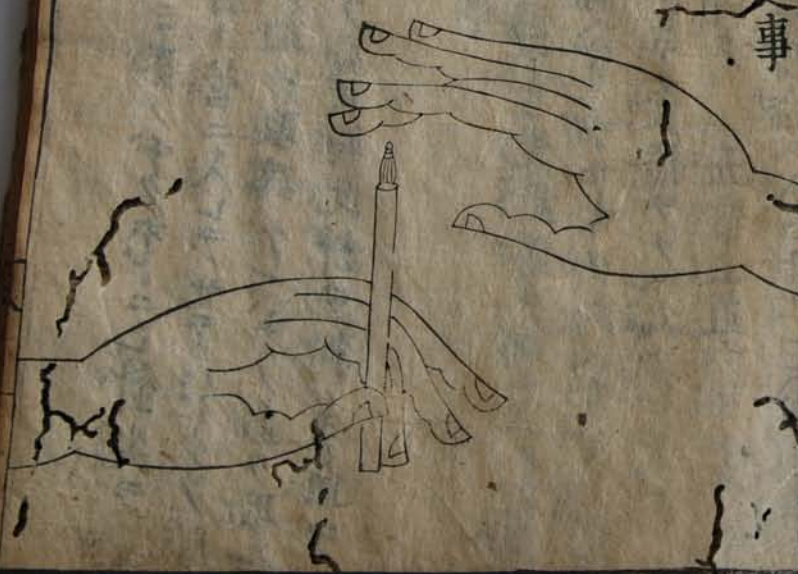
十四管鍼之事

擦針手法得難シ打針ハ沉痾ニ至テヲヨヒカタシ
ニ針ニヨサレテ有テタヘニ道ニイタルハ管針ニレクハナシ
ミナヒヤスクレテ針ヲ下スニ痛ムズ病人ノ精氣衰ヘス
手法ハ左ノ手ニテ管ヲ穴ノ上ニ當テ針ヲ管ニ入テ右
ノ食指ヲ中指ノ後ニ重テ食指ノ公ヲニテ針ヲ管ヨリ
出タル分ラバキ下スウカフテハレケハ痛ク一キホヒニ
ハレキ下スベシ管ノ持ヤウ、大指ト食指トミナ中
モチ中指ニテ肉ヲ推ヘ針ヲ公キ下シテ管ヲスキ去
右ノ食指大指ニテイカホトモ擦リ下ス下サズレテ静ニ
擦ルガカリミテ大方ノヤマヒヲ治スル。吳樞ニヨリ鍼六
ニ深キトキハ邪氣反テ沉ミヤミヒイヨク益スト有ル

管鍼ノ寸法アリ管ノ長ケニ寸五分。針ヲ轉リ穂ヲハ
 分。惣長ニ寸八分。管ヨリ針三分ナカシ針ノ形ヲ大身
 ヨリスコシフトキガヨキゾ。細キハ針ノ中ノリテ針口痛ソ
 小兒ニ用ユル針モホク軸五分總寸二分。管一寸五
 分手法右同事ナリ針ノ流サセバ、トイヘトモ要理
 ニ叶ハス其半ニ効有テ半ニ害在リ。或ハ半ニモ効アラザ
 ルモ有ル。其中ヲ撰ミテ。愚テ棄テ効有ルヲ書キ
 ノスルモノナリ。一文不通ノ族ヲ。愚ガ容才辨舌ヲ以テ
 自己ノ我流ヲ立諸人ヲタブラカシ針灸ヲホトコシ人
 ナヤマヌヤカラ多シ。ト云フニ。可慎哉。ヤマヒヲ
 醫置スルニ。醫置經十。經井三針灸ノ諸書ヲ明カ

十四 管針之手法之事

圖ノリバダク



十五 砭針之事

軸一寸總六分總ノ太三麥ノ千クホドニニ針尖ヲ三
ス錐ノ様ニシテ小兒針ノ管ニ入レテサテハジクゾ腫
物ノロヲアクル時日腫ノ血ヲ取時ケンベキノ血ヲ取ル
時邪氣集リテイタミヲ成ス時此針ヲ刺レテ血ヲ
抜ナリ奇驗アリ

十六 補瀉隨之事

手法ノ補瀉虛實ノ補瀉アリ先針鋒ヲロニフク三溫
針ヲラシメテ右ノ肘ヲ向ヘリ手サキヲ内ヘカメ大指
サキ前向ヒ呼氣ニシタカヒテ食指ヲソヘ大指ニテ紐ニ
然リ下ストキ咒レテ曰ク 五帝上直六甲玄氣
付至集邪開理ト三篇念ス入コト二三分留ルコト

五六呼吸ニシタカヒ病ニシタカヒテ然リ下シ退動搖
セシメテ氣ヲ至ラシメ手ヲ振ヒ鍼ヲハジク徐々ニ
吸ニ隨ヒテ針ヲ出ス孔ヲ閉ヨ是手法ノ補ナリ
瀉ハ肘ヲサケテ我カ前ニ付手サキヲ向ヘナレ大指ヲ
サキニ向テ吸ニシタカヒテ然リ下ス大指ヲ添ヘ食指
ニテ然ルトキ咒ノ曰ク 帝扶天形護命成矣ト誦
スルニト二三遍入コト三分留ルコト五六呼吸ニシテ經ニ
ヒ病ニ迎ヒテ然リ下ス氣至テ左手ニ鍼ノロヲ開
キ呼ニ隨テ針ヲ出ス孔ヲ閉サルガヨキツ咒ヲ念ル時
ハ心針ニ念ヲヨスゾ是手法ノ瀉ナリ婦人ハ是ニ變ス
補法ヲ瀉トシ瀉法ヲ補トス
虛實ノ補瀉ハ補ハ不足ヲ補ヒ瀉ハ有餘ヲ瀉ス不

足ハ痛ヲナシ麻ヲナス有餘ハ腫ヲナシ痛ヲナス夫民カ
正傳ニ曰ク其鍼ヲ刺ニ補瀉ノ法有リトイヘ用テ恐
ク俱ニ有漏無補ト云々ソレカレドモ此文段ニ針法
ノミニテ手法ノ論ナシヨリ以テラク靈樞百九欲以微
通其經脈調其血氣當其逆順出入之會今可傳
後世必明鍼之法ニアゲヌアルノ説ニ曰ク世俗ノ醫
者ガ云フハ針スルトキハ氣カヲトロヘ病ニ宜シカラスト云
我ハ一々針シテ人ノ氣カヲトロフト云フヲレササルソ
ソレ人ノ病ハ邪氣勝テ正氣ヲクルヲ蓋シ針ハ邪氣ヲレ
ケテ元氣ヲ生スルモノゾ豈針リ刺シテ氣カヲトロフト
云フ有テヤ我俗醫ノ言フトコロノ意昔ヲウカバ
看ルハ針ハ忍痛ノ効アリ是ヲ以テ針スルトキハ氣

カヲトロフト云フゾイサハ針經ヲアキラメテ云フハ
アラスミトコレ俗説ナリ不足信フシカリト
世人ノ能ク信スルモノ俗説ナリ世人ノ信セサルモノハ
至言ナリ論スニ益ナキフゾ蓋シ針ニ痛ミノ性無キ
フゾ痛ハタイタサル刺者ノ能ト不能トニ依ルゾ若シ妙
手ヲ得フ有ラハ何ゾ忍痛ノ勞ト云フアラヤ故ニ灵樞
ニ曰ク能刺者不傷肉而能中病トアルゾモ
ノ其來ルヲ尚キフゾ寧一人ノ不能ヲ以テナカク萬
世ノ針法ラスルヲセヤ針ニ忍痛ノ勞アルハ刺者ノ
不能ナリタゞ針ノミニアラス藥ニ於テモ亦然リ醫
ノヨシアレニヨツテ藥ノ人ヲコロスフ又針ヨリモ手タリ
モレ好手ニ逢トキハ針藥共ニ病ヲ治スルヲ西手ニ逢

トキハ針ノ共ニ人ヲコロスモノナラズヒトリ針ヲイテ
ソノ害ヲ論ズルヲアラヤ。時ニアル人。問テイフ。針ヲ聞
針ニ浮アリ補ナレト。是ヲ以テ人。三ナコレヲフル。ソ
予カイハ。針ニ浮アリト云。正ニ病者ノ有餘スル上ヨ
ヲ刺シテ實邪ヲ浮スル義アリ。浮藥ノ如キヲ義ニ非
ス。又針ニ補ナレト云。ヲ知ラザル。既ニ針經ニ補ノ
義ヲ宜ベタ。タレカコレヲ知ラザラヤ。不足ヲ刺シテ病
ヲ除クトキハ。元氣ミチヲ得テ順ル。コレ元氣ヲ生ズ
アスヤ。假令。人東ヨリ西ヘ過ル。如キノ中途ニ奸賊
有テ。コレニ碍ルトキハ。人過ル。アタハサル。時ニ傍觀ノ
者有テ。カノ奸賊ヲ追ヒ。ヒリククルトキハ。人ヤスクイ
ミチヲ過ク。マサニヒレ。途ヲスルモ。正氣ナリ。マレハ碍

ル奸賊。邪氣ナリ。カノ奸賊ヲ追ヒ。ヒリククルモノハ。針
ナリ。君見スヤ。針ニ四法アリ。其ヲ迎隨ト曰。是針
ニ補アリ。浮アルノ證ナリ。何ゾ。偏ニ補ナレト云ハ。ヤ。予
醫ニアラス。トイヘ。氏多病ナルヲ以テ。保養ノタメニ閑暇
ノ日。時々醫家ノ書ヲ把テ讀テ。針藥相去ラサルヲ
知ル。古ニ所謂。醫者。カナラスニ。世ノ書ニ通スト。コノ語ヲ以
テ。ニルトキハ。何ゾ。偏ニ藥ヲ取テ。針ヲステシヤ。所謂。二世
ノ書トハ。黃帝針灸經。神農本草。岐伯脈訣ナリ。脈
訣ハ。察証。本草ハ。藥ヲ辨ズ。針灸ハ。ヤ。ヒヲ袂ス。是
三ノ者。ニアラスハ。醫ト云。不足。コノコ。ロヲ以テ見ル
トキハ。是醫家ノ要具ナリ。イマ。クスリヲホド。スモノ
ヲ呼テ。醫師ト云。ヒ。針刺スモノヲ呼テ。醫師ト云。

ニコトニ可^レ笑哉藥治ト云ヒ灸治トイヒ針治ト云ヒ
豈病ヲ治スルモノ醫ニアラザランヤ醫師トシテ針ヲ
ソレルハ武士ノ兵カヲソレル如キゾ國ニ奸賊アルト
キハ兵カヲ用ヒ人ニ疾病アルトキハ針藥ヲモテニ
タトハ藥ハ智仁ノコトニ針ハ兵ノコトニ智仁ヲ表ニシ
兵ヲ裏ニスルトキハ剛柔ノチハツテ國豈ヲサミラザラン
ヤタスリヲ表ニシ針ヲ裏ニスルトキハ強弱カチテ疾寧
愈サランヤ凡人ノ經十二各經五穴アリ井榮俞經
合ト云フ是ナリ五ニシテ十二ナルトキハ六十穴ナリ
己針ノ要穴ナリ針灸ノ穴ニ身ニ三百六十穴ヲノ
針スルト音ノ要穴六十又ツノ要穴モ二十四穴アリ
腑ノ病ニ各經ニ依テ其經ノ俞ヲ刺ス臟ノ病ニ各

經ニツテ其經ノ合ヲ刺スコレ十二俞十二合ヲワセテ二十
四穴ニナリ俞ハコレ各經ノ本原ナリ故ニ又原穴トモ名
ク又其經ニ病アルトキハツノ經ノ原穴ヲ刺シテ治スルツ
ツノ經實スルトキハ之ヲ浮シ虛スルトキハコレヲ補ス素問ニ
曰ク浮ニカナラス方ヲモチヒ神ニカナラス圓ヲモチユフル人
ノイワク方圓ノ義イカシテカイハク方トハ氣ノ方ニ盛ナ
ントスル方ナリコレ氣ノムササカチラントスラ見コレヲ迎ヘテ
刺シテ氣ノ實技ク故ニ浮ニ方ヲモチユト曰フ圓行ナリ後
ナリ宜サルノ氣ヲ行シイタ復サル脈ヲ移スナリ宜サル
ヲ移ラシイタ復サシ移シテコレヲ濟スコレ處氣ノ
動シテコレヲ補フナリ迎隨ノ義ナリタトハ足ノ二陽ノ
經頭ヨリ起ニイタルデ針ヲ刺スモノ指ヲ以テ氣ノ脈ヲ

摩リ上セテ針鉗ヲ上ニ向テ經脈ノスミニ逆テロレバ
刺シテソノ實ヲ按クコレ迎テ奪ノ義ナリ又刺入ノ
ユビヲモツテ經ヲ摩下ニテ針鉗下ニ向テ經脈ノ
後ニ隨テ刺シテソノ虛氣ヲ濟フコレ隨テ濟ノ義
ナリ虛シテ脈滯テ移スカ方ユニ後ニ隨フ刺シテ脈ヲ
移ラシメ氣ヲノビシムタトハ牛勞シテ車移サルヲ人後
ニシタカフテソノ輪ヲ推シテカヲ牛ニアワセテ以テ車
ヲウツスカゴトキゾコレ隨フノ義ナリ經脈ハ子ヨリ午ニ
イタリ午ヨリ子ニイタツテ陰陽上下ノ分カンカフ
ベキナリイミソノ滯ヲアグルミヨニワイテフカク思
惟共針ハ實ヲ奪ヒ虛ヲスクフテモツテ經脈ヲトメテ
ルモノナキ經脈タカラサルトキハ五藏六腑邪ノ受カ
ル

運用ノ途ヲ断ハジテ開格ノ憂ライカン蓋開格ハ針
盡サズレテ死ストコレ古人ノコトナリ針ハソレ急救ノ
方手ヨク刺ストキハソノ功藥ヨリモ早キゾ又經穴ニ
カハワズシテ病ノ處在ヲ刺スコレ散針ト云徐氏又
コレヲ天應穴ト云フ今時ノ刺者多クハコレ散針ノ法
ミタトヒ經穴ヲカガヘテ刺スモノアル又迎隨道理ニ
的當セサル針ソノ經ニ當ルトイヘ凡迎ヘテウバヒ隨
テスレバノ義ナシ長針ヲモツテフカク刺スユヘ經脈ヲツ
ラスキトフシテ鋪チレク臟腑ニ入テ損傷ヲナス古人
ノ警戒スルトコロノ腹ニ針スルヲ數十日針藏腑ヲ損
シテ膿潰シテ死ス等一兩人ヲ見ル世間多ク人カ如此
ナラシモロクノ經脈ミナ外ニアル針壞ニ入ゾノ所ナシ

ツノ穴ニヨツテ針入ルニ二分或ハ二分半三分各分アリ。カルガユニ昔ハ周身三百六十穴針モ又三百六十本有テソノ經ヲ刺スニソノ針ヲモツテスソノ針ヲ刺スモノヨク知シ容易ニシテ深ク刺シテ損セサルヲ損ヲナシ傷シタルニ傷ヲ成スベカラス。抑予カ刺ス處ノ針ハ本邦針家ノ祖無分ノ未流ナリ。病ノ頭ニ在ルモ又腹ニ於テ刺ス病脚ニ在ルモ又腹ニ在リテ刺ス一身ノ病都テ腹ニ於テ刺スソノ針ニ次序アルゾ。諸病先ツ臍ノ下一穴ヲ刺スコレ腎間ノ動氣ニノ十二經ノ根本ナリ。コレヲ刺シテ以テ元氣ヲ却シテ而ノ後ニ散針ノ法ニヨツテ經穴ニ拘ムズシテ邪ノ所在ヲ刺シテ元氣ノ巡行ヲ開テ通セシムトキハ氣順スル氣順スルトキハ痰順スル痰順

トキハ熱散ス熱散スルトキハ風内ニ消ス況ヤ又氣順スルトキハ血活ス血活スルトキハ潤ヒ生スウモヒ生ズトキハ精生ス精生スルトキハ神内ニ立ツ蓋シ針ノ功ヲ成スヲカクムト。古人滿身ニ刺フ以テ好トセス。俞原ヲ以テ好トス。腹ヲ刺フ以テ好トセス。四肢ヲ刺フモツテ妙手トス。コレハタゞ臟腑ニ中ラフヲ恐レテ此ノゴトキゾ。タトヒ俞原ヲ刺スモ又四肢ヲ刺スモ意ヲ得サルトキハ不可ナリ。腹ヲ刺スモ意ヲ會得シテ刺ヘ可ナリ。古人腹ヲ刺スヲ禁ムルゾレ針深ク入テハ藏府ヲ損ス。多シ藏府ヲ損スルトキハ立ツトコロニ死セサレモ害ヲナス。予カ刺スコロノ針ハ針ノ銳カ皮裡膜外ニ止ミツテ藏府ハ入ラサズ。針カ藏府ハ入ルヲアホ

ヲ刺テモ功オキコゾノ故ナニ云フナレハ四氣外感ノ
七情内傷ノ火薰蒸シテ有膜鼓動シ膜外振寒ノ温
熱三汗スクシテ垢ノ身ニモ分ゴトシ又電ノ上ノ燥ノ
ゴトシ又嚴寒ニシテ霜ノ木ノ葉ニ浮フガ如クイウヤ又乾
枯スル鼓ノ皮ノ急張スルガコトキムカルガコニ膜沉シ裡
ニツイテ藏府ヲ押ヘテ元氣ノ途ヲ絶スルゾコノトキニ當
テ氣滯滯シテ諸病ヲ起スソノ予ガ刺ストコロハ針銳
モツテ膜外ニ投シ之ヲシテ柔和ナラシムトキハ氣ノ途
ヒラクゾ氣ノミチヒラクトキハ血又順ル血メタルトキハ膜
モウルホヒヲ得テイヨク柔和ナルゾカルカユニ病トゴ
ホルトゴナキソノ人ヲクハ針ヲ刺スニコノヲモムナシ針
藏府ニ入テ傷ヲナスゾ予カ刺ストコロハ今予カ陳ルガ

コトキソ腹ヲ刺ストイヘトモナニヲソルトコロアラシ
經ニイッテ熱渾々脉漉々汗大滂大飢大渴新飽
大驚等ミナ刺スヲナシ又形氣不足病氣不足此陰陽
ミナ不足ナリゴラ刺スヘカラスコレラ刺ストキハカサ子テ
ソノ氣ヲ竭ス老者ハ絶滅壯者ハ復セスタアルノマコトナ
ルカナゴノ言トシカレドモ經脉ヲ刺ノ針ハ脉中ノ氣ヲ
奪フユヘニミナコレヲ恐ルゾ予カ刺ストコロノ針ハ經
脉ノトコロヲ除テ俱膜ヲ刺シヤワラクルノ下德ノミ
扁鵲カ抓膜ノ儀ナリ

十七阿是之穴之事

阿是ノ穴ハ秘傳ナリルノ絡穴三百六十所ミナ經ノ
正道ナリ阿是ノ穴ハ三百六十所ノ必蕭トコヲ

テ針灸ヲ行フコト阿是ノ穴ナリ。コレヲ天應ノ穴トモ云
 散針トモ云ナリ。セアルトテミタリニ行フニアラス。穴ハ
 田ヲユクニ道ヲ行スシテ田ノ阿是ヲユクノミヨリ道ニ
 入ラズドモ田ノ中ヲユカスシテ阿是ヲ行ガコトギゾ。
 經絡ノ外ナレドモミタリニホドコスニアラス。道理ヲカガ
 針灸ヲナスモノナリ。ミタリホドコトキハ人ヲナヤマスレカル
 ニヨリ秘中ノ秘トシテコレヲユルサ初學ノモノイタスコト
 ニアルス。ヨク經絡ヲ會得シタル者阿是ノ穴ヲ行フ
 ト奇驗アリ

十八

手之指圖

小指ト云

無名指ト云

中指ト云

食指ト云

母指ト云

此コトク中指ヲカメテ

一ノ折ストニテ折取リ

アイダノ文ノ頭ニテ

寸法ヲ取其身

一寸ト定ル

手クビノ此文ヲ腕脈ノ文ト
 云手ノ内ヲ掌ト云手ノ
 外ヲ腕甲ト云



十九 針之圖之事

九針之圖

鑱針



鑱針ハ長サ一寸六分熱頭身ニ

圓針



圓針ハ長サ一寸六分分間ノ氣

鍤針



鍤針ハ長サ三寸半脉ヲラレ邪氣

鋒針



鋒針ハ長サ一寸六分癰熱ニ刺

鈹針



鈹針ハハ二寸半長サ四寸癰ニ

圓利針



圓利針ハ長サ二寸六分癰痺ヲ

毫針



毫針ハ長サ一寸六分寒熱痛痺

長針



長針ハ長サ七寸深邪遠痺ヲ

大針



大針ハ長サ四寸大氣關節ヲ

撚針



撚針ハ長短サハアリ銷者ノ

氣ニ應ジテ用ユシカレドモ長キハヨロシカラス軸六分穂二

寸五分ヨリ二寸ニテカ大針ヨシ

打針

管針

ホ針

破針

ミ針

ケ針

針

地

今

ナル

打針ハ軸一寸穂二寸二分

管針ハ軸一寸穂一寸八分

ホ針ハ軸六分穂一寸二分

破針ハ軸八分穂モ八分穂ノ太

ミ針ハ軸一寸穂一寸八分

ケ針ハ軸一寸穂一寸八分

針ハ軸一寸穂一寸八分

地ハ軸一寸穂一寸八分

今ハ軸一寸穂一寸八分

ナルハ軸一寸穂一寸八分

三十一 月度之圖説之事

週身臟腑形状

肝ノ重サ四斤四兩左リ三葉右リ四葉

心ノ重サ十二兩中ニ七孔三毛有リ

神ヲ藏スフツカサドル

脾ノ重サ二斤三兩扁廣三寸長五寸

肺ノ重サ三斤三兩六葉兩葉凡八葉

腎ノ重サ二斤三兩六葉兩葉凡八葉

膽ハ肝ノ短葉ノ間ニアリ

胃ノ重サ二斤十四兩

腸ノ重サ二斤十四兩

脾ノ重サ二斤三兩

肝ノ重サ四斤四兩

五寸徑五寸穀ヲ盛フ二斗水一斗五升
 小腸ノヲモサ二尺十四兩長三丈二尺廣二寸半徑八
 分分ノ少半左廻リ疊積フ十六曲穀ヲ盛フ二斗
 四斗水六升三合合ノ大半

大腸ノヲモサ二尺十二兩長二丈一尺廣四寸徑二寸臍
 ニ當テ右ニ廻リ疊積フ十六曲穀ヲ盛フ一斗水七升半
 膀胱ノヲモサ九兩二銖縱ノヒヨク九寸瀝ヲ盛フ九升
 九合口ノ廣サ二寸半厚ヨリ齒ニ至テ長九分齒ヨリ
 以後會厭ニイタリテ深キフ三寸半大五合ヲ容ル
 古ノヲモサ十兩長七寸廣二寸半

咽門ノヲモサ十兩廣二寸半胃ニ至テ長一尺六寸
 喉龍ノ重サ十二兩廣二寸長一尺二寸九節

肛門ノ重サ十二兩大八寸徑二寸大半長二尺八寸
 穀ヲ受ルヲ九升三合八分合ノ一

臟腑之圖



